



一般就労に向け、障害者職業センターの職業評価を受け、本人の強みや苦手なことを一緒に整理をしていくなかで、ハローワークから、こまちの委託訓練「清掃科」の紹介を受けました。しかし、清掃科訓練には本人の苦手なトイレ掃除が含まれており、受講について藤丸さんは非常に悩みました。「『これができないから無理だ』ではなく、『どうしたらできるのか』を一緒に考えましょう！」と相談を繰り返すなかで、藤丸さんは「講義のすべてが苦手な分野で

### 一般就労に向けて

持ちから、帰宅後、入浴を済ませるまで食事をとれませんでした。リフレで働くにつれ「もっとお給料を稼いで自立したい」と、一般就労への思いは強くなり、退職しました。リフレの職員からは「仕事はまじめで頼りになる存在。理解をしてくれる職場があれば充分にやっていける」という評価でした。

訓練が始まり、毎日みんなと一緒に昼食を食べることで、趣味のことが話せたり、ほかの受講生や職員との会話ができるようになり、訓練中でも受講生とのつながりが増え、一体感を感じることが多かったです。

「便器磨きができた」「苦手だと避けてきたことに挑戦できた」「みんなと一緒にがんばることができた」。このできごとは、藤丸さん

はない。たとえば、マスクをしたり、手袋をすれば乗り切れると思います。受講します」と力強く決意しました。

清掃科が始まる時に、「訓練だから安心して失敗も経験できるし、いろんなことにチャレンジをして、『大丈夫！』の気持ちを育てていけるといいですね」と伝えました。また、藤丸さんから「コミュニケーションは得意ではないけれど友だちがほしい」という気持ちを教えてくれました。そこで「みんなと一緒に昼食を食べること」「自分の苦手なことにもチャレンジをする。ただし、無理はしないこと」といった2つの目標を立てました。

「僕は潔癖で、トイレ掃除のなかでもとくに便器磨きが一番苦手でしんどくなってしまつたため、便器磨きはしなくていいようにしてほしい」と伝えました。受講生からは「わかりました！ 無理しなくていいですよ！」「僕たちが便器磨きをしている姿を見て、気持ち悪くなったりしないですか？大丈夫ですか？」と本人の気持ちに対して理解を示してもらえ、藤丸さん自身も「勇気を出して自分で伝えられた」「みんなのやさしい気持ちがかうれしい」という気持ちの芽生えを感じられました。



## 第5回 自分を受け入れて 自分を生きる

障害者就業・生活支援センターこまち 千原由美子

# 働く生きる 私らしく fromよさのうみ

京都・よさのうみ福祉会の実践

障害者就業・生活支援センターこまちは、就労面と生活面の一体的な支援を行うセンターで、丹後全域（2市2町）に在住の障害のある方の支援を行っています。近年の特徴として、精神障害の方、診断のない発達障害が疑われる方の相談が増えています。就職希望者、就業中の方、または企業の相談に応じ、関係機関（企業・ハローワーク・障害者職業センター・保健所・福祉サービス事業所等）と連携し、相談、支援、対応をしています。また、就業準備支援として年に2回の委託訓練（3ヵ月間）も行っています。

### なんで自分にはうまくできないんだろう

藤丸さん（仮名・30歳）は大きな音や声、たばこ等の匂い、汚染恐怖等への感覚過敏があります。中学校卒業後、中古ゲーム販売店で5年間勤務しましたが、お店の都合で解雇となり、その後はホテルの客室清掃、織物産業、スーパー等、何度も転職を繰り返しま

した。スーパーの仕事で、指示を理解することが苦手であったり、商品の品出しをする際にお客さんの視線が怖くなったことから、自傷行為を起こすようになり、「自分でもなぜこんなことをしてしまふのかわからない」と保健所に相談をし、退職に至りました。

その後、アスペルガー症候群の診断を受け、こまちでの相談・支援がスタート。就労に向けて相談を重ねリフレかやの里の利用が始まりました。リフレでは、客室清掃や大浴場の清掃、環境整備にとりくみました。本人の感覚過敏のストレスを軽減できるようにトイレ清掃とゴミ回収はしなくてもよいと配慮され、2年間休まずに通うことができました。

一方で、ほかの利用者から大声で叱責されたことが引き金となり、自傷行為が再発しました。また、清潔でない人への嫌悪感や、ルールを守らない人に対してのストレス等から、吐き気や腹痛も現れるようになりました。ほかにも職場で「自分が汚れた」という気